

## 令和4年度 第1回 総合教育会議 議事録(概要)

- 1 日時 令和4年8月30日(火) 14:45~15:45
- 2 場所 県庁講堂
- 3 出席者 知事、教育長、教育委員4名
- 4 議題 新たな三重県教育施策大綱の策定について
- 5 主な意見 (○:教育長、教育委員 ●:知事)

### 【主な意見】

- 子どもたちの読解力や理解力が低下しているように感じる。学びを生かして、粘り強さ、柔軟性など生き抜いていく力が高まることもめざしてほしい。
- 高校卒業後、新入社員として入社してくる18~19歳の人間力が10年前と比べて低くなっていると感じる。社会総がかりで、子どもを育てていけるような大綱にしていきたい。
- 現行の大綱は三重県の独自性を感じたが、今回の骨子は、ややネガティブというか、教育の課題的な側面が前面に出ている印象を持った。教職を志望する学生が少なくなっているなか、三重県の教育の魅力を前面に出してはどうか。

【教育を取り巻く社会情勢の変化】については、三重県の強みや弱み、全国との比較など、三重県の情報を入れたほうがよいのではないか。

今後数年間で大きく変わっていくのは、中学校の部活だと思う。スポーツ庁の有識者会議では、休日の運動部活動は段階的に地域に移行するという提言だったが、移行には受け皿となる団体など課題もある。持続可能な部活動にするために、目に見える形で大綱に書いてはどうか。

課外活動や集団生活は社会の縮図であり、中学校から経験・体験できる場を作ることがストレス耐性を高めることにつながるのではないか。

教育現場において、子どもたちが一人一台端末を使っており、プラス面はあるが、スモールスクリーンによる視力の低下など、学校保健的な観点も必要ではないか。

- 【教育を取り巻く社会情勢の変化】には、課題を書いたほうがよいのではないか。その課題があって、その課題に対応するための政策、大綱となるはずである。また、前文と【教育施策の基本的な考え方】は結びついているのか、【教育施策の基本的な考え方】は、社会情勢の変化全てを網羅しているのか。

三重県の教育施策大綱であり、三重県のデータに基づき、三重県独自の記述が必要ではないか。

教育には、教えるということだけでなく育むという側面もある。

育むという面では、【教育施策の基本的な考え方】の中で、「よりよい人生」というのは、何と比べてよい人生なのか、また、「市民的な考え方」について、それぞれ人の価値観によって異なるのではないか。

教えるという面では、前の大綱にはアクティブラーニングなど、能動的な学習についての記述があったが、次の骨子ではそれが読み取れない。コロナ禍の影響で学生たちは画面上で学ぶ機会が増えているため、受け身の学生が多く、能動的に学習できる生徒との差が極端に広がっていると感じる。デジタル社会の中で、オンライン授業として不登校の子が参加できるようになったというような良い効果もあったが、受け身的な教育にならないか危惧している。

- 大綱には、一人ひとりの成長の大切さや重要性の観点が書かれている。一方、これから社会の中で多様な人々と一緒になって豊かな社会をつくっていくとしたときに、学校の中でも他者との関係性という観点も必要ではないか。

また、これから学校を卒業し、将来を豊かに生きていくとなったときに、学校の学びだけでなく、社会に出て必要な学習が続けられることの重要性が高まっており、そうした点も加えてはどうか。

社会情勢の変化などに対応して、学校教育のあり方を検討することは大事なことだが、地域産業や介護福祉が必要とされる地域もあると思うので、そのあたりもわかるように記述してはどうか。

- 読書は個人の経験では体験できない新しい経験を取り入れ、別の人の考え方を学び、物事に対処する力につながる。骨子にも書いているが、本文にもしっかりと記述したい。

学びを通じて生き抜いていく力は、よりよい人生に関係してくる。教育というものはテストを解く力を身につけるだけではなく、どうやって生きていくかということをお教え、育んでいくということに通じる。教育の中には、ティーチングとカウンセリングがあるが、その間にあるものが大事だと思う。そういったことを本文の中にどう体現するかである。

新入社員の力が落ちているということは、人にもよるが、一般的に今の社会人はコミュニケーションなどの対面の力が落ちているのか、社会人としての常識が欠けている部分があるのかもしれない。教育にどんな問題があるのか掘り下げていくべきではないかと感じた。

今回の大綱は問題解決型の骨子となっている。現行の教育施策大綱との比較を行い、本当にそれがよいのかということは、しっかりと議論していく必

要がある。また、三重県の教育の特色や、今後の教育をどうしていくのかについては、教育委員会の方から話をしていただき、それに知事部局の考え方も入れて大綱に記述したい。

人を育てていくことは大変だが喜びもある。教員の働き方改革の部分など、教育の魅力もあるということを出していく必要がある。

社会情勢の変化として、三重県の分析が弱いということについて、論理構成は必要である。

中学の部活動について、教育現場において部活動を通じた教育もある。非常に難しいところであるが、ティーチングにシフトしていくことは事実だと思う。社会への移行をスムーズにというのは、教育現場で大きな目的の一つであり、どこに問題があるのかどうか、引き続き議論したい。また、学校保健的なものについて記述は少ないが、それをどのように実現していくか検討する。

教育はティーチングとカウンセリングの部分があるが、カウンセリングの部分はどうしていくのかが大きな問題である。育む部分については、今後も意見をいただき、そこを誰が担うべきなのかという議論が必要である。

「よりよい人生」については、価値観が異なるのは認識しているが、幸せな人生を送ることについて、どういった記述ができるのか検討する。

いじめの「市民的な考え方」については、教育界のいじめの第一人者との議論の中で出てきた言葉である。大人の社会ではハラスメントが少なくなってきたが、中学校や高校では大人の社会と比べて野放しになっているので、いじめられた人間にもたらす影響などをきちんと教えることが必要である。市民性というよりは社会性という言葉のほうがよいのかもしれない。

教育委員会とすり合わせ、教育に関する基本的な方針になるよう、意味のある大綱にしたい。

- 教育委員が言われた内容や、データについては教育委員会事務局で対応が必要な大きな課題である。一方、学校教育ではない部分もあるので、今後も知事部局と連携していく。また、並行して教育ビジョンについても議論しており、今回の議論をふまえ、整理していくことや、共有していくこともあるので、引き続きよろしくお願ひしたい。